【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成22年2月4日(2010.2.4)

【公開番号】特開2008-133407(P2008-133407A)
【公開日】平成20年6月12日(2008.6.12)
【年通号数】公開・登録公報2008-023
【出願番号】特願2006-351707(P2006-351707)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｇ　63/85　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｇ　63/85

【手続補正書】
【提出日】平成21年12月14日(2009.12.14)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ジカルボン酸を含有する多価カルボン酸とジオールを含有する多価アルコールとを、リン化合物が共有結合したチタン化合物および／またはリン化合物が配位結合したチタン化合物の存在下で重縮合するポリエステル樹脂の製造方法であり、前記リン化合物が共有結合したチタン化合物および／またはリン化合物が配位結合したチタン化合物として、ホスフェート系チタン化合物および／またはホスファイト系のチタン化合物を用いることを特徴とするポリエステル樹脂の製造方法。
【請求項２】
前記ホスフェート系チタン化合物としてイソプロポキシチタン・トリスジオクチルホスフェート、ビスジオクチルホスフェートエチレングリコラトチタン、イソプロポキシチタン・ビスジオクチルピロホスフェート、ビスジオクチルピロホスフェート・エチレングリコラトチタン、チタニウム・ビスジオクチルピロホスフェートオキシアセテートからなる群から選ばれる一種以上の化合物を用いる請求項１記載のポリエステル樹脂の製造方法。
【請求項３】
前記ホスファイト系チタン化合物としてイソプロポキシチタン・トリスジオクチルホスファイト、ビスジオクチルホスファイトエチレングリコラートチタン、イソプロポキシチタン・ビスジオクチルホスファイト、テトライソプロポキシチタン・ビスオクチルホスファイトからなる群から選ばれる一種以上の化合物を用いる請求項１記載のポリエステル樹脂の製造方法。
【請求項４】
前記ホスフェート系チタン化合物および／またはホスファイト系のチタン化合物として、チタニウム・ビスオクチルピロホスフェートオキシアセテートおよび／またはテトライソプロポキシチタン・ビスオクチルホスファイトを用いる請求項１記載のポリエステル樹脂の製造方法。
【請求項５】
前記ホスフェート系チタン化合物および／またはホスファイト系のチタン化合物を、該チタン化合物中のチタン原子の重量でポリエステル樹脂を構成する原料の合計に対して０．１～１００ｐｐｍとなるように用いる請求項１記載のポリエステル樹脂の製造方法。
【請求項６】

前記多価カルボン酸としてテレフタル酸および／またはイソフタル酸を含有する多価カルボン酸を用い、且つ、多価アルコールとしてエチレングリコール、プロピレングリコールおよびネオペンチルグリコールからなる群から選ばれる一種以上のジオールを含有する多価アルコールを用いる請求項１記載のポリエステル樹脂の製造方法。
【請求項７】
前記重縮合をポリエステル樹脂のガラス転移温度が３０℃～１５０℃で、軟化点が６０℃～２００℃となるように行う請求項１～６のいずれか１項記載のポリエステル樹脂の製造方法。
【請求項８】
前記重縮合をポリエステル樹脂のポリスチレン換算による数平均分子量（Ｍｎ）が５００～１０，０００で、ポリスチレン換算による重量平均分子量（Ｍｗ）が１，５００～１００，０００となるように行う請求項１～６のいずれか１項記載のポリエステル樹脂の製造方法。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
即ち、本発明は、ジカルボン酸を含有する多価カルボン酸とジオールを含有する多価アルコールとを、リン化合物が共有結合したチタン化合物および／またはリン化合物が配位結合したチタン化合物の存在下で重縮合するポリエステル樹脂の製造方法であり、前記リン化合物が共有結合したチタン化合物および／またはリン化合物が配位結合したチタン化合物として、ホスフェート系チタン化合物および／またはホスファイト系のチタン化合物を用いることを特徴とするポリエステル樹脂の製造方法を提供するものである。